

(様式1)

平成27年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 086	提案機関名 横須賀三浦地域県政総合センター
要望問題 未利用木竹の有効活用について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 三浦半島においては、木や竹を伐採しても運び出すのに費用がかかり、加工しても収益が上がらない。このため何十年も手が入っていない森林及び竹林が多く存在する。また、大きくなった木は、倒木等の恐れから地域住民の不安の対象となっている。 また、畜産では、周辺環境への配慮から、糞尿におが屑をまぜ、堆肥化することで、臭気を軽減している。畜産農家によると、近年、おが屑が入手しにくくなっているとの話があり、おが屑が入手できないときは、古紙から作った資材をおが屑の変わりに使用しているとの話もある。 竹も同様に農畜産業でチップ等に使用することもあるが、竹をパウダー上に加工し、それを肥料として利用することで作物の成長を促進させるなどの効果があることも報告されている。 そこで、大きくなった樹木または竹をその場でおが屑等に加工、小さくし、搬出・運搬が簡単にできるようにすることにより、低価格でおが屑等として、販売し、コスト循環できるシステムを作成することで、これまで放置されていた、森林等(薪炭林)についても、伐採することが可能となり、地域住民の不安を解消できると考えます。移動が簡単にでき、簡単におが屑等を作ることができる低価格な機械の開発と未利用資源循環システムの構築をお願いしたい。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター②畜産技術センター③水産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	自然環境保全センター	担当部所	研究連携課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合)			
対応の内容等 竹や枝条を破砕処理する機械は小型ですが、防災的見地からの住民の不安がある大径木を破砕するには、機械が大型にならざるを得ません。当センターには機械の開発を行う人的資源がありませんので、林業機械展示会や業界紙などで、機械の動向を注視し、大径木処理機械の有力な情報があれば提供いたします。 農業や畜産への竹パウダー活用は、他県での実践事例が複数報告されており、軽トラックに積載可能な自走式の破砕機も市販されているようです。 未利用資源循環システムの構築については、林業と農業の普及職員が農業や畜産と連携して、小型の破砕機により未利用の竹や小径木、樹木の枝条のチップの活用を図る取組みを試行することが有効だと考えますので、実施に当たっては、他県の研究機関の情報収集などの調査指導対応としてまいります。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			